



並里 成

なみざと なりと / 1989年8月7日生まれ / 沖縄県出身 / 福岡第一高→サウスセントスクール / 高校1年時のウインターカップで優勝し、ベスト5に選出。「ファンタジスタ」の異名を取り、創造性あふれるプレーで多くのファンを魅了した。スラムダンク奨学金の第1期生として渡米し、帰国後の2009年プロ入り。キャリア15年目の今季は群馬の先発PGを務める。

本当に後悔したんです。そんなふうに、英語だけでなくバスケットの技術の面やストレッチなどのケア、メンタルトレーニングなど、僕が子どもの頃には知らなかったこと、もう早くから知っておきたかったと思うことを、次の世代の選手たちに届けられたらと考えています。

渡部 セカンドキャリアに関しても、今バスケットを頑張る人たちにに向けて、引退した後の人生のことも考えてみよう、という意図なんですか。バスケットを辞めた後も、人生は続きますよね。でも子どもの頃や学生の頃から、自分のキャリアについて考えている選手は少ないのかな。バスケットを引退したらそれで終わりではなく、その後、その後の人生をさらに豊かにするために、現役のうちから考えたり学んだりしておく大切

さを伝えていきたいと思っています。

子どもたちの合宿で意識した憧れのプロ選手が見せる姿勢

——そうした活動を並里選手の引退後ではなく、現役中に起業して始めるということも珍しい決断かと思いますが。

渡部 現役プロ選手がもたらす影響力ってすごく大きいと思うんです。バスケットを第一線で頑張るながら、自身の学びや経験を社会に還元していく。引退した元選手ではなく、現役プロ選手がそうした行動を起すことに大きな意味があると思っています。選手をしながら一人で会社を運営していくのは難しいと思いますが、そこは僕たちがサポートできる。基本的にシーズン中は、成には目の前の試合に集中してもらい、動画コンテンツなどがチームを離れずできるものを進めて、活動はオフシーズン中心になる予定です。そもそもシーズン中の成はバスケットにめちゃくちゃ集中しているから、試合前日など誰も連絡が取れませんが、(笑)。

並里 僕、スマホを見るとダメなんです。試合に向けてフォーメーションや「相手がこうきたらこうしよう」「こうきたらああしよう」というイメージをたくさん頭に入れるのですが、スマホで情報を一つ脳に入れると、代わりに一つフォーメーションが抜け落ちる(笑)。だから試合前はスマホなどを封印しています。

渡部 感覚でプレーしているように見えて、すごく考えているんですね。常にバスケットのことで頭がいっぱい。食べ物やお風呂にもこだわっていて、そこは本当にプロフェッショナルです。考え過ぎて眠れないこともあるみたいですけど。

並里 最近は呼吸法にもこだわっています。——やれることは全部やる、というプロ



渡部 敬祐

わたなべ けいすけ / 1989年6月9日生まれ / 秋田県出身 / 能代工高→日本大 / 名門・能代工高で高校3年時にキャプテンを務め、インターハイと地元国体で日本一を達成。現在は自身で会社を運営しながらRCホールディングス株式会社の監査役も務める。今年5月、並里とともに株式会社fantasistaを設立し、代表取締役役に就任。

僕への質問にもすごく熱量がありました。新開 合宿をデザインする上でイメージしたのが、僕が子どもの頃、月バスの白黒ページで見た「ジョーダンキャンプ」です。そのページを見て、ジョーダンはカッコ良かったし、憧れの存在でした。そこから考えたのは、やはりプロ選手は参加者の憧れの存在であるべきだということ。憧れて「こうになりたい」と思うから、自分から学ぼうとするし吸収しようと思えますよね。だから今回のキャンプでは毎回、成の登場シーンを作ったり、宿舎を別にしてあえて接触機会を制限したりと、成と参加者とのほご良い距離感を意識していました。あまりに長い時間を一緒に過ごす、たとえ相手がプロ選手であってもそこに、慣れが多少は生まれるかと思ったので、それを避けたかったんです。

また、今の時代、うわべの情報や資料はネット上にいくらでも転がっています。だからこそ今回の合宿では、現場でしか感じられないこと、成が姿勢で見せることを大切にしました。例えば合宿2日目、成は朝5時半から10時までシュートイングリッシュしました。憧れのプロ選手がそういう姿勢を見せるというのは、成が言葉で説明する以上に、子どもたちの中に残ることの可能性があります。与えるのではなく、子どもたちが自分で何かを吸収して持ち帰るような合宿にしたいと思っています。

——それは興味深いですね。参加者によって、持ち帰るものも異なるかと。

新開 そうです。僕たちがあしろ、こうしろという正解を与えない合宿だったのだから、人によって吸収したものも、その量もバラバラだと思います。ただ、今回勇気が出なくて成に質問できなかった子も、「悔しい、次は質問しよう」と思えたらそれは価値のある経験ですよ。そういうことも含めて良い合宿でしたし、ほかではあまり

セカンドキャリアで大切な未来をイメージする力

——先ほどセカンドキャリアのお話がありました。渡部さんも新開さんも、現在はバスケット界ではない世界で活躍しています。バスケットに打ち込んできた経験が、セカンドキャリアに生きてきた部分はありますか？

渡部 すごくありますね。例えば能代工時代、加藤三彦先生(現西武文理大監督)の下で、見えない相手と戦う練習、をずっとしてきました。試合を想定して相手と自分をイメージし、そこに向かって準備する。それはビジネスの世界にもすごく通ずるので、イメージして、そこに向けて努力す



新開 潤

にいおか じゅん / 1989年10月19日生まれ / 青森県出身 / 能代工高→拓殖大 / 高校大学とマネジャーを務め、A東京でマネジャー兼広報を務めた後、2017年に退団。現在はMCやモデル、俳優として活躍し、映画『東京リベンジャーズ』への出演や、日本人2人目となる「NIKE LAB」のモデルを経験。映画『THE FIRST SLAM DUNK』のバスケットボール音響監修 & 声優も務めた。